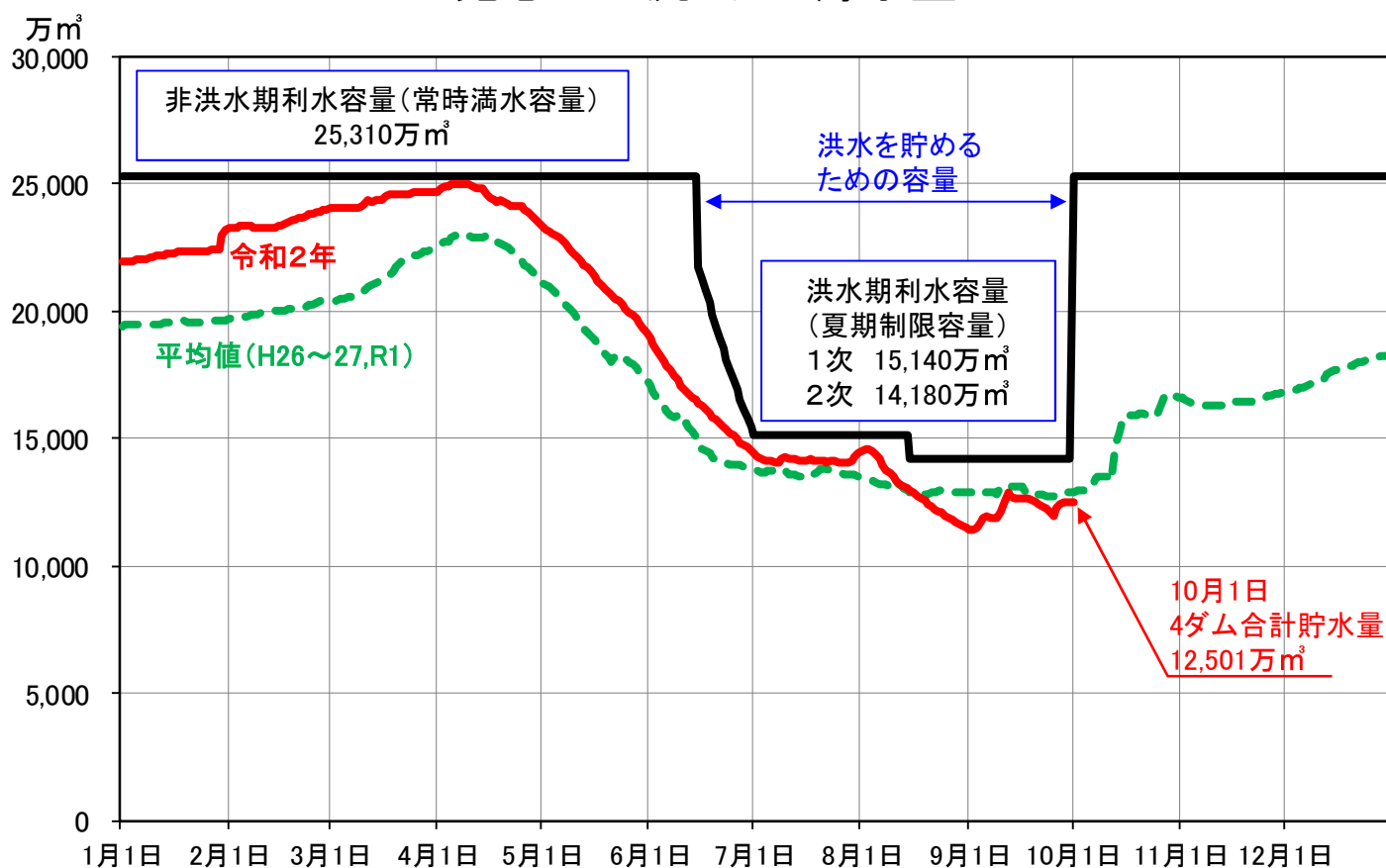


ダムの「貯水率」の表記が変更になりました。

鬼怒川上流4ダム(五十里ダム、川俣ダム、川治ダム、湯西川ダム)は、治水と利水を目的とする多目的ダムであり、洪水を貯める容量を確保するため、6月15日より9月30日までの期間、利水のために貯留可能な容量が制限されていましたが、10月1日からは利水のために常時満水容量まで貯留可能となりました。

このため、ダムの貯水率の表記が変わりました。

鬼怒川上流4ダム貯水量



●貯水率の計算式

当日の貯水量 ÷ 有効容量 × 100%

- ・10月1日から6月14日までは、常時満水容量の25,310万m³。
- ・7月1日から8月14日までは、1次夏期制限容量の15,140万m³。
- ・8月15日から9月30日までは、2次夏期制限容量の14,180万m³。

※ 6月15日から6月30日までは、川治ダム、湯西川ダムの制限水位が等差的に変動することから、有効容量についても日々変わります。

【9月30日の貯水率】

ダム名	有効容量 (万m ³)	貯水量 ^{※1} (万m ³)	貯水率 (%)
五十里ダム	1,120	504	45
川俣ダム	4,860	4,129	85
川治ダム	4,000	3,974	99
湯西川ダム	4,200	3,904	93
4ダム合計	14,180	12,511	<u>88</u>

※1 令和2年9月30日の貯水量

【10月1日の貯水率】

ダム名	有効容量 (万m ³)	貯水量 ^{※2} (万m ³)	貯水率 (%)
五十里ダム	3,200	509	16
川俣ダム	7,310	4,124	56
川治ダム	7,600	3,962	52
湯西川ダム	7,200	3,906	54
4ダム合計	25,310	12,501	<u>49</u>

※2 令和2年10月1日の貯水量

このように9月30日の貯水率88%が、翌日の10月1日には49%の表記となりました。貯水率が小さくなったのは、ダムの貯水が減ったのではなく、ダムに貯められる限度の容量が大きくなったためです。